

JAMの主張

「郡山りょう」と共に勝ち抜く

第26回定期大会あいさつ（抜粋）

JAM会長 安河内賢弘

【機関紙JAM・2024年8月25日発行 第307号】

本年1月1日に発生いたしました能登半島地震で亡くなられた皆様に衷心より哀悼の意を表します。また、被災された皆様に心よりお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復旧、復興をご祈念申し上げます。並行して行いました台湾地震と合わせまして、6千万円を超える浄財が寄せられました。組合員の皆様の温かい真心に対しまして、心より御礼申し上げます。被災地の現状は、震災から8カ月が過ぎた今日でも、まるで時が止まったかのように復旧、復興は遅々として進んでいません。息の長い支援が必要であり、皆様の引き続きのご支援を心からお願い申し上げます。

昨年に引き続き、今次春闘も、極めて大きな成果を上げることができました。これもひとえに、粘り強く交渉を継続した単組執行部の皆様のご努力と、それを職場から支え続けた組合員の皆様の団結力の勝利だと確信を致しております。今年の春闘は確実に成果を上げることができましたが、残念ながら格差は開き、取り残された仲間がいました。JAMに集うすべての仲間の賃金が、まっとうな水準まで引き上げられるその日まで、何度でも立ち上がり、粘り強く要求を繰り返さなければなりません。

人手不足は、労働者だけではなく、経営者も同じです。経営者の平均年齢は60歳を超えており、後継者不足に悩み、毎年約5万社が廃業しています。こうした中、M&Aが活発に行われるようになっていきます。私はすべてのM&Aに反対するわけではありませんが、一部にユニオンバスター、すなわち組合潰しを公然と行うM&Aが存在していることも事実です。こうしたユニオンバスターとは断固として闘わなければなりません。今、岐阜工業労組やゲンゼSOZ労組、ナカシマ鉄工労組の仲間が、悪意のある経営者と闘っています。団結こそ力です。ユニオンバスターの撲滅に向けて、JAMの団結力を見せつけてやりましょう。

政策実現の取り組みについて、「郡山りょう」は今、一人でも多くの仲間の皆さんの現場の声を聴くために、全国を飛び回っています。この一年間、「郡山りょう」の活動を見て参りましたが、とにかく何に対しても全力で前向きに取り組んでいます。皆さんも感じておられると思いますが、日々進化を続けています。これもやはり現場の声「郡山りょう」を育ててくれているのだと思います。9月からはLINEによる仲間作りもスタートいたします。JAMにとっても大きな挑戦となります。新しい取り組みではございますが、基本は変わりません。1対1コミュニケーションのような小さな会合の中で、熱意をもって「郡山りょう」を頼むと繰り返し伝えることが出来るかが勝負です。「郡山りょう」と共に、この選挙戦を勝ち抜いていただきますことを心よりお願い申し上げます。